

評価者	市民活動部長	小池 忠紀
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	産業振興	施策の方針	商工業振興の充実
目標とすべきま ちの姿	中小企業をはじめとする事業者が事業を継続するための支援として、経営アドバイザーの派遣や経営革新への取組に対する助成が行われ、産業が活性化しています。 また、商店街は、高齢者も利用しやすい、地域の特性を生かした商店街となり、活性化しています。 鎌倉彫の保護・育成を目的とした活動の支援や協同組合との連携による伝統工芸品の技術伝承の支援などにより、伝統工芸が伝承されています。また、事業者や組合と協働した伝統工芸の販路確保等により、売上が向上しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	25.1%	平成27年度	29.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

仕事 の 効果	お金の使い方			お金の使い方			<妥当性の分析> 仕事の効果、お金の使い方ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は39.1%と最も多くなっている。次に効果「不十分」、お金を「使いすぎ」と効果「不十分」、お金が「足りない」と答えた割合がともに6.2%で2番目に多くなっている。 前年度と比較して「ちょうどよい」と答えた割合が増加していることから、施策の妥当性が理解されつつあると考えられる。
	必要以上の効果	6.6%	0.5%	0.0%	必要以上の効果	2.6%	
ちょうどよい	4.8%	37.0%	0.3%	ちょうどよい	3.9%	39.1%	0.3%
効果不十分	9.0%	3.6%	5.5%	効果不十分	6.2%	4.4%	6.2%

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	13.3%	42.4%	12.5%	31.8%	100.0%
平成27年度	12.6%	43.2%	8.0%	36.2%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

商工業の持続的な発展と活力あるまちの創出を図るため、商工業者や商店街団体等が、事業展開しやすい環境の整備を図る。  
 安全・安心の商店街づくりに向けて、夜間の通行の安全性を高め、防犯に寄与する商店街街路灯について、その維持管理を支援するため、LED化を推進する。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
市民-04	商工運営事業	42,482	2,577	44,011	4,193	0.2	0.2	b	B
市民-05	中小企業支援事業	514,996	509,284	522,641	517,365	1.0	1.0	b	B
市民-06	商工会議所助成事業	14,667	14,667	15,431	15,475	0.1	0.1	b	B
市民-07	商店街振興事業	13,167	13,285	20,047	20,558	0.9	0.9	b	B
市民-08	商工業振興事業	43,226	102,687	47,048	107,536	0.5	0.6	b	B
市民-09	公衆浴場助成事業	776	484	1,540	1,292	0.1	0.1	b	B
市民-10	伝統鎌倉彫振興事業	1,573	1,572	2,337	2,380	0.1	0.1	b	B

### (3) 主な実施内容

**【主な実施内容】**  
 市の制度融資を実行するための資金を金融機関に預託するとともに、制度融資の利用者に信用保証料の一部及び経営安定資金融資の利用者に支払利息相当額の一部を補助した。(市民-05)  
 商工業の総合的な改善・発達と社会一般の福祉の増進を目的とする商工会議所の運営及び事業に要する経費の一部を助成した。(市民-06)  
 商店街団体が実施する売上の増加が見込まれる事業、地域住民との交流が見込まれる事業等に要する経費の一部を助成した。(市民-07)  
 商工業元気アップ事業を実施し、創業部門及びステップアップ部門でそれぞれ1事業者を認定し、事業に要する経費の一部を助成した。(市民-08)  
 国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地域消費喚起・生活支援型)を活用し、商工会議所が実施した、(仮称)かまくらスーパープレミアム商品券発行事業に要する経費の一部を助成した。(市民-08)  
 各商店街団体に対し、LED化の効果や市内実績に係る情報提供を行うとともに、LED化を計画している商店街団体を支援し、41%超のLED化率を達成した。(市民-07)

**【実施できなかった事業とその理由等】**

### (4) 平成27年度の実績の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

**<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>**  
 鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に伴い、創業支援として創業資金融資制度の拡充を、事業活動の継続支援として融資対象の一部拡大を実施した。  
 各商店街団体に対し、LED化の効果や市内実績に係る情報提供を行うとともに、LED化を計画している商店街団体を支援した。  
 企業立地促進に係る取組については、他市における情報収集を行い、本市で効果的と考えられる企業立地支援策の整理をするとともに、「鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の具体的な施策に「企業立地支援」を位置付け、制度構築に向けた準備作業を行った。

### 3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

製造業や新規成長産業(医療福祉関連、生活文化関連、情報通信関連、新製造技術関連、環境関連など)の企業が事業展開しやすい環境の整備に努める。  
 経営相談や融資制度の充実、受注機会の拡大を図ることで、中小企業の創業、経営安定、経営革新を支援する。  
 商店街が「物販・サービスの場」「憩いと楽しみの場」「まちの顔」「地域コミュニティの核」となるよう、地域の特性を生かした商店街づくりを支援する。

### 4 平成28年度の目標

企業立地・設備投資に対する支援制度を整備する。  
 市内の空き家・空き店舗等を活用した企業活動の拠点整備を行う。  
 安全・安心の商店街づくりに向けて、夜間の通行の安全性を高め、防犯に寄与する商店街街路灯について、その維持管理を支援するため、LED化を推進する。

### 5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	市民-07	事業名	商店街振興事業								
指標の内容	商店街団体加入率						単位	%	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
商店会へのアンケート調査により、直近3カ年度において、最も加入率が高い数値を目標とした。	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0				
	実績値	76.8	79.9								
	達成率	90.4%	94.0%								

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘	指摘への対応、コメント等
<p>・助成・支援について、単に経済的な形だけでなく、アドバイザーの助言や他都市との交流などを通して、各事業者が発展していくようサポートしていく方法を色々な形でたくさん試してほしいと思う。</p>	<p>本市では、「商工業元気アップ事業」、「創業支援計画」などにおいて、商工会議所や金融機関など専門機関で事業者のニーズに合わせたアドバイスを行うとともに、「企業情報発信・交流サイト」等における企業間の交流促進に取り組んでいる。</p>
<p>・各事業において、指標が「設定されていない」「設定されているが、効果を計るには不相当」等が見受けられるため、各事業の「意図」や「効果」が明確に測れる指標を設定して頂きたい。</p>	<p>庶務的事業など指標を定めることが難しい事業もあるが、引き続き各事業の効果測定に係る指標の検討する。</p>
<p>・様々な助成を行っているが、助成の結果、どのような効果があったのかを測定する必要がある。</p>	<p>「商工業元気アップ事業」では、補助金交付事業者に対し、3年後に中小企業診断士等を派遣し、認定後の事業展開の検証やアドバイス等を行っている。その他の補助事業についても、実績報告書の提出を受ける他、事業者からのヒアリングや商店街アンケートなどで状況把握に努めている。</p>
<p>・交流サイトの開設、運営についても活用状況を把握し、より実用性を高めるべく改修を測る様な、PDCA活動も行って頂きたい。</p>	<p>⇒ 企業情報発信・交流サイトについては、平成26年度にスタートした事業であり、これまでの利用状況等を勘案し、改修等に向けて検討する。</p>
<p>・「目標とすべきまちの姿」として掲げている「地域の特性を生かした商店街」とは各々どのような商店街であり、また「高齢者も利用しやすい商店街」とはどういった商店街なのか、具体的にした上で、実現に向けた取り組みを行って頂きたい。</p>	<p>「地域の特性を生かした商店街」については、各商店街団体から地域の特性に応じて目標を定めた事業計画書の提出を受け、支援している。また、「高齢者も利用しやすい商店街」に係る取組については、各商店街団体の連合組織である鎌倉市商店街連合会において、先進事例の視察等を行っており、随時必要に応じて、アドバイザーを派遣するなど支援していく。</p>
<p>・鎌倉彫については、なぜ「保護」や「育成」をしなければならないのか。本来鎌倉彫は産業として成り立っていたはずである。産業として成り立てば、当然後継者も現れるはずであり、まず何故産業として成り立たなくなったのかを検証すべきではないか。</p>	<p>鎌倉彫は、本市唯一の国指定による「伝統的工芸品」であり、高度な技術の伝承と地場産業としての振興を図ることは、市の責務であると考えており、産業としての活性化については、伝統鎌倉彫事業協同組合と協議し、取り組んでいる。</p>

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・商工業元気アップ事業など、様々な事業への助成が行われており、積極的に施策を実施している。
- ・製造業や新規成長産業(医療福祉関連、生活文化関連、情報通信関連、新製造技術関連、環境関連など)の企業が事業展開しやすい環境の整備に努めることや、新しい成長分野に対する意識が芽生えつつあることはよいと思われる。
- ・LED化の効果や市内実績に係る情報提供を行うとともに、LED化を計画している商店街団体を支援している。

		評価の内訳						委員会の評価
取組	↗	2	↘	0	→	6	⇒	→
効果	○	1	△	1	—	6		—

### 《課題》

- ・地域における就業者や職種のバランスを考えて、産業振興を行う視点が求められる。
- ・ステイクホルダー(意見をもつもの、利害関係者)の視点がまだ十分でない。
- ・若い世代のベンチャー企業が進出してきている。新規参入しやすい環境づくりが求められる。
- ・「助成した」とあるものについて、その効果・結果が分からない。資金を助成するにしても、市の商工業に効果的な助成であったのか明らかにすることが求められる。
- ・事業の立上げ時の助成はあってもランニングコストへの助成は慎重でなければならない。助成により、その商工業、伝統工芸の活性化を阻む結果を招く可能性も視野に入れなければならない。
- ・商工会議所の補助金を始め、一部助成金について見直しが求められる。
- ・現在、各地で存続をかけて伝統工芸について切磋琢磨している産業が多い中で、鎌倉市における伝統工芸についての取組が明らかになっていない。
- ・「目標とすべきまちの姿」の何の実現のためにどのような取組を行い(実施内容)、どのような効果があったかが分からない。

### 《提言》

- ・今後の鎌倉の将来を担う産業を育成する立場をとるべきである。
- ・目標は持続的な発展を目指すことであるが、鎌倉彫は伝統を守るだけでなくさらに進化させ、新しい産業として育ててほしい。
- ・過去の対策に拘泥せず発想を転換しなければならない。市内の空き家・空き店舗等を憩いの場などとしての活用することも検討すべきである。
- ・目標である中小企業の活性化を示す指標を検討すべきである。
- ・評価委員会からの指摘「様々な助成を行っているが、助成の結果、どのような効果があったのかを測定する必要がある。」に対して「商工業元気アップ事業」では、補助金交付事業者に対し、3年後に中小企業診断士等を派遣し、認定後の事業展開の検証やアドバイス等を行っている。その他の補助事業についても、実績報告書の提出を受ける他、事業者からのヒアリングや商店街アンケートなどで状況把握に努めている。」としているが、それらの結果を具体的に示すべきである。また、他の事業においても評価を行うべきである。